

3-7 志望実現への努力

進路の計画

1. 題材設定の理由

3年生の12月ともなると、ほぼ自分の進路先が見えてくる。そして、ともすると中学校卒業後の進路しか目に入らず、進学するために勉強だけしていればよいと思ひ込んだり、就職するからとただ何となく日々を過ごしてしまったりする生徒もいる。

そこで、高校進学や就職することは進路実現のための過程に過ぎないことを理解させ、就職後もその職業を続けていくために必要となる力を考えさせる。そのうえで、その力を身に付けるためにも、残りの中学校生活の中で、どんな努力をしていかななくてはならないかを考えさせる。

2. 指導のねらい

自分の進路設計図を明らかにさせる中で、進路実現のために、3月まで努力しなくてはならないという決意をもたせ、実践していこうとする態度を育てる。

3. 指導計画（全1時間）

事前	・自分の進路設計図（P.54㊦）を事前に記入し、将来就きたい職業に必要と思われる力を書き出し、発表をできるようにしておく。
本時	・進路実現のために、3月までどのような努力をしていかななくてはならないか考える。
事後	・各自の決意文を交流しながら、今後の生活に生かすことができる。

<説話例>

もうすぐ皆さんは卒業を迎えます。そこで、皆さんの今までの生活を振り返ってみましょう。例えば学校行事では、班や学級、学年と一緒に取り組むことで、協力し合うことの大切さを学んできました。委員会や係の仕事では、自分の役割を果たすことの大切さを学んできました。また部活動では、厳しい練習に耐えたり、毎日のように練習に励んだりすることで、粘り強く取り組むことの大切さを学んできました。改めて考えてみると、皆さんが今まで取り組んできた一つ一つのことが、将来の自分につながる必要な力だと思いませんか？

今、皆さんは、卒業後の進路のことで頭がいっぱいかもしれませんが、それは進路実現のための過程に過ぎません。その先の自分の人生を豊かに過ごせてこそ、進路実現です。だからこそ、今日考えた「残りの中学校生活で努力しなくてはならないこと（決意文）」を大切に、残りの中学校生活を送ってくれることを期待しています。

今、皆さんは、卒業後の進路のことで頭がいっぱいかもしれませんが、それは進路実現のための過程に過ぎません。その先の自分の人生を豊かに過ごせてこそ、進路実現です。だからこそ、今日考えた「残りの中学校生活で努力しなくてはならないこと（決意文）」を大切に、残りの中学校生活を送ってくれることを期待しています。

	活動のねらい	活動の内容	指導・援助の留意点	資料等
は じ め の 活 動	・自分の進路設計をまとめ、将来就きたい職業に必要と思われる力を書き出すことができる。	◎自分の進路設計とそのために必要なことを交流する。 ～将来就きたい職業に必要なこと～ ・責任感 ・ねばり強さ ・明るく活発なこと ・仲間と協力すること ・礼儀など	・事前に自分の進路設計図とそのために必要なことをまとめさせておく。 ・抽象的な言葉が多いと思われるが、発表者一人一人を認め、励ましていきたい。 ・将来必要とされる力は、人間性であることに注目させる。	・P.54㊦、㊧を書かせておく。
	課題：進路実現のために、3月までどんな努力をしなくてはならないか考えよう。			
中 心 的 な 活 動	・「N男さんの作文」を参考にして、将来の願いを実現させるために、3月までどんな努力をしていかななくてはならないかを考えることができる。	◎小（中）学校教諭になるための進路設計図を考える。 ・高校、大学を卒業しなければならない。 ・大学を卒業すれば先生になれるのかな？ ◎先生に必要とされる力を考える。 ・生徒にわかりやすく授業をすることができる。 ・話すことが得意なこと。 ・協力できること。 ・指導を受けた時、自分を見つめ直す力。 ◎P.55資料「N男さんの作文」を参考に、N男さんの生き方や考え方について、感想を交流する。 ①N男さんが考える教諭に必要なことを交流する。 ・わかりやすい授業をすること。 ・生徒を大人として成長させること。 ②N男さんが教諭になるために決意したことを交流する。 ・毎日3時間の家庭学習 ・挨拶活動や自分の仕事、掃除などに前向きに取り組むこと。 ③N男さんの生き方や考え方について交流する。 ・将来の希望をもち、具体的な努力目標をもって生活しようとしているN男さんは立派だ。 ・将来の進路実現のために意欲をもって生活しているN男さんを見習いたい。 ・自分も具体的な目標をもとうと思う。	・P.76資料「いろいろな職業への道」を参考に、教諭になるための進路設計図について説明する。 ・文章に書かれていることをもとに、大切な点をまとめていく。	・P.76資料「いろいろな職業への道」教諭になるための進路設計図
ま と め の 活 動	・自分の努力目標を具体的にもつことができる。	◎自分の努力目標を作文に書き、発表する。	・自分なりの努力目標を2、3名の生徒に発表させる。	・P.54㊩